

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・個々に1年生はアサガオを育て、2年生は野菜を育てた。植物の成長を観察する中で、大きく育つ様子に気付いたり、愛着をもって世話をしたりすることができた。
- ・学校探検では、学習のゴールを明確にし、少人数グループを作って探検することで、目的意識をもって活動することができた。
- ・1・2年生の交流を通して、2年生は上級生としての自分の役割に気付き、1年生は楽しみながら活動することができた。
- ・学習後の表現、情報共有について、自分たちの考えたことやまとめたことを工夫して発表することができた。
- ・植物の成長を観察する中で、大きく育つ様子に気付いたり、愛着をもって世話をしたりすることができた。
- ・学習カードの内容などを発表し、個人での気付きを全体で共有し、考えを広げることができた。

(2) 課題

- ・1年生の場合、絵をかくことが苦手だったり、ひらがなが自由に使えるようになるまで時間がかかったりする。そのため、植物などを観察した際、よい気付きをしているのに、表現することに困難を感じている児童がいる。
- ・植物や生き物の観察の際に、タブレットを活用しようとする、見たり触ったりする時間が少なくなってしまうことがあった。

2 授業改善のポイント（観点別）

(1) 低学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・ 生き物や植物の成長に気付いたり、愛着をもって世話をしたりできるように、一人一個の植物を育てたり、グループで一つの生き物を育てたりする。(指導計画・授業構成) ・ 異学年との関わりをもち、優しく接することができた自分の成長や、役割が増えたことに気付くことができるようにする。(指導計画) ・ 一人一人に生まれた個別の気付きを関連付けたり、自分と身近な人々や社会、自然についての気付きを大切にしたりする。(指導計画) ・ 個人での気付きを全体で共有できるように、それぞれが書いた学習カードの内容を共有する時間を設けたり、共通点に気付いて、理解を深めたりできるようにする。(授業構成) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 栽培活動や観察活動を通して気付いた植物や生き物の成長や変化について、自分なりにまとめたり、表現したりできるように、観察カードを用意したり、ICTを活用して記録をしたりする。(授業構成) ・ 1・2年の交流や入学前の児童と積極的に関わり、自分でできる工夫を考える機会を増やす。(指導計画、学習構成) ・ 気付きや考えを広げたり深めたりできるように、友達と共有する場面を設定する。(指導計画、授業構成) ・ 児童が気付いたことや自分の思いを表現しやすくするために、観察活動では、観察の視点を明確にする。(指導計画) ・ 児童が楽しく遊べるように、秋に見つけたものや動くおもちゃを作る活動を通して、ルールや約束の工夫を考えさせるようにする。(指導計画) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分ができるようになったことを友達に伝え合ったり、自分の役割を増やしたりして、これからの成長への願いをもって意欲的に生活しようとするために、自分自身の生活や成長を振り返る活動を取り入れる。(指導計画、授業構成) ・ たくさんのことに気付くことができるように、体験的な活動を多く設定する。(指導計画) ・ 目的意識をもって取り組むことができるように、学習のゴールを示し、それにあった授業形態で行う。(指導計画、授業形態) ・ 身近な自然・地域に目を向け、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりすることができるように、継続的に観察を行ったり、自分たちの生活や成長について振り返ったりする機会を設ける。(指導計画、授業構成)

3 今年度授業改善プラン成果と課題

(1) 成果

- ・植物の成長を観察する中で、大きく育つ様子に気付いたり、愛着をもって世話をしたりすることができた。また、スクールサポーターの方と連携して、栽培活動を行うことができた。
- ・自分の生活を振り返り、「自分でチャレンジ 大きくせん」を実施することを通して、家族の笑顔を増やしたいという意欲もち、家族の一員としてすすんで活動することができた。
- ・学習カードの内容を書画カメラで映しながら発表したり、オクリンクプラスで作った課題を共有したりすることを通して、個人での気付きを全体で共有し、考えを広げることができた。
- ・1年生の学校探検では、学習のゴールを明確にし、少人数グループを作って探検することで、目的意識をもって活動することができた。2年生の地域探検では、視点を明確にし、事前学習を充実させることで、目的意識をもって活動することができた。また、コースによっては、インタビューも行うことができ、相手意識をもって活動することができた。
- ・学習後の表現、情報共有について、絵や紙芝居、ペープサート、クイズ、すごろくなど、様々な方法の中から選択して、自分たちの考えたことやまとめたことを発表することができた。
- ・1年生では、秋の自然を使ったおもちゃを、2年生では、身近なものを使ったおもちゃを作った。児童が楽しく遊べるように、動くおもちゃなどを作る活動を通して、ルールや約束の工夫を考えさせるようにする。
- ・1・2年生の交流を通して、2年生は上級生としての自分の役割に気付き、1年生は楽しみながら活動することができた。1年生も、3学期は次年度入学してくる新1年生と交流することで、上級生になるという自覚が芽生えていた。

(2) 課題

- ・植物や生き物の観察の際に、タブレットを活用しようとする、見たり触ったりする時間が少なくなってしまうことがあった。
- ・文字や絵を描くことに個人の差が大きく、わかりやすくまとめることができることできないこの差が出てしまった。そのため、分の書き方や絵の描き方の指導が必要となり、多くの時間が必要になった。
- ・1、2年生の直接交流の活動の機会を多く作ることができなかった。カリキュラムを見直し、交流する機会を計画していきたい。
- ・町探検で、コースによってはインタビューを行うことが難しく、見学場所または、人数の再考も視野に入れて町探検を計画していく。